

令和 7 年度第 4 回三重県教育改革推進会議
県立高等学校の在り方調査研究部会
議事概要

1 日 時 令和 7 年 12 月 24 日（水）10 時 00 分から 12 時 00 分まで

2 場 所 三重県総合教育センター 第 4 講義室

3 出席者

三重県教育改革推進会議県立高等学校の在り方調査研究部会委員 10 名

松 浦 直 己 部会長	井 上 珠 美 委 員
加 藤 崇 英 委 員	川 北 睦 子 委 員
黒 田 喜 昭 委 員	田 中 望 委 員
田 村 知 子 委 員	立 花 美 緒 委 員
平 山 大 輔 委 員	廣 瀬 琢 也 委 員

（事務局）

大屋副教育長、

一尾教育政策課長、佐川学校経理・施設課長、山北高校教育課長 ほか

4 配付資料

資料 1 三重県教育改革推進会議県立高等学校の在り方調査研究部会委員名簿

資料 2 答申（部会長案・修正）

資料 2（別紙） 答申（部会長案・修正・概要）

参考資料

答申（部会長案）※ 第 3 回県立高等学校の在り方調査研究部会資料

5 調査研究（次期県立高等学校活性化計画の策定に係る県立高等学校の学び並びに規模及び配置の在り方について）

松浦部会長から資料 2 に基づき、答申（部会長案・修正案）について説明。

委員間での議論の後、出された意見を踏まえた修正とその答申案の三重県教育改革推進会議での報告については、全会一致で松浦部会長に一任となった。

なお、出席委員からの主な意見は次のとおり。

(廣瀬委員)

- 地域における学校の存在意義を明確にした上で、それを発信することが重要である。

(平山委員)

- 三重県は他県と比べ人口が分散している。このことは、学校の配置を考える上で重要な特徴となる。

(井上委員)

- 「保護者」について、どこかで言及すべきではないか。
- 1 学年 1 学級規模の学校については、人間関係が固定化され、こじれると修復しにくいということにも言及するとよい。

(田中委員)

- 「保護者」の視点を入れることについて、同感である。
- 幼稚園や小学校の保護者は、将来、高校の数が減ることを認知していない。高校を減らさざるを得ないという状況を保護者に対し周知していく必要があるのではないか。

(立花委員)

- 11 ページの記述にある「学校用家具」は「家具」とし、より自由な家具選びを可能にすべきである。
- 小規模校の記述が否定的なトーンに偏っている。小さな学校が合う生徒もいるというメリットにも触れるべきではないか。
- 目次の構成が配置及び規模の在り方に偏り、高校の再編が主目的に見える。生徒ファーストなどポジティブな副題を入れてはどうか。

(田村委員)

- 多様な学びのニーズに応じ、全日制、定時制、通信制の課程を柔軟に行き来できる可能性を記述したことは大変意義深い。
- 答申に記載のある取組を持続可能なものとするためには、教職員の果たす役割が重要である。「教職員」についても言及が必要ではないか。
- スクール・ポリシーは、生徒や保護者に発信する前提として、まず教職員が自分事として理解していることが大事である。

(加藤委員)

- 議論の対象は配置と規模に重点を置いたものと理解していたが、そうではなかった。また、対象とされた学びについても、学びの内容に言及す

ることなく、学びの箱に議論が終始していたり、当初説明のあった「不登校の生徒」や「特別支援学校の高等部」のテーマを扱うことがなかったりするなど、この部会で何を議論したいのかが分からなかった。

(黒田委員)

- 子どもたちが高校を選ぶ基準として、三重県ならではの多様な学びの保障を強調していくとよい。
- 昨日発表された4校の募集停止^{*1}について、この答申に今後どのように反映し、表現していくのが気になった。

(加藤委員)

- 4校の募集停止が並行して決まっている状況で、1学級の学校を維持するような議論をすることは矛盾しているのではないか。

(川北委員)

- 中途退学者だけでなく、卒業生のその後の状況を分析することも大切ではないか。
- 企業との連携は、「共に生徒を育てる取組」とであると具体的に記載してはどうか。
- 「選ばれる県立高等学校」に、「スクール・ブランディング」という言葉を入れてはどうか。

(平山委員)

- 答申案で配置と規模の在り方が強調されているのは当然で、むしろ最も重要な部分である。地域の活性化協議会はそうした県のグランドデザインを求めている。

(廣瀬委員)

- 14 ページの「1 学年 1 学級の学校」に関する記述は、個別に書く必要があるか疑問である。

(立花委員)

- 1 学年 1 学級の学校が 1 校しかない中で 1 学年 1 学級規模の学校について否定的な記述をすることは、その学校の廃止を示唆する強いメッセージとなるので、避けるべきではないか。

^{*1} 会議前日の 12 月 23 日に、県教育委員会は、石薬師高等学校、あけぼの学園高等学校、南伊勢高等学校度会校舎及び志摩高等学校の 4 校を令和 10 年度入学者選抜（令和 9 年度実施）から募集停止とすることを決定し、発表した。

(平山委員)

- 1 学年 1 学級の学校について、県がどのように考えるかを明確に示すことは、地域での議論の実情を踏まえると必要ではないか。

(了)